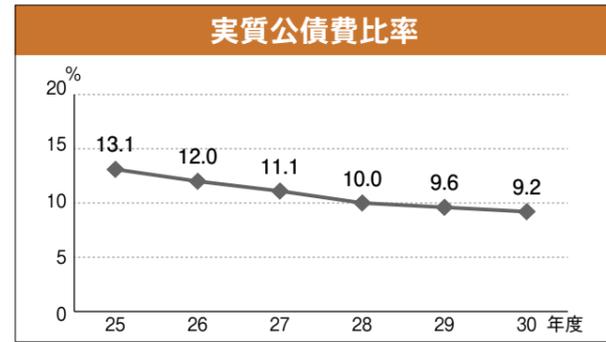
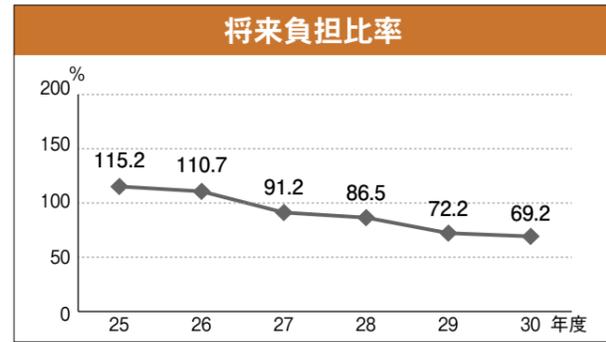


健全化判断比率から見る府中市の財政

健全化判断比率の推移

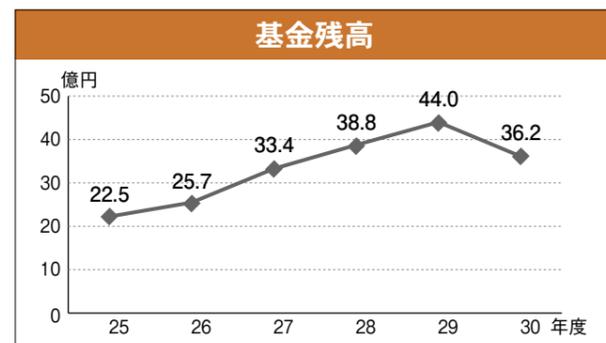


実質公債費比率は早期健全化基準（25%）を大きく下回って推移し、比率も順調に減少しています。

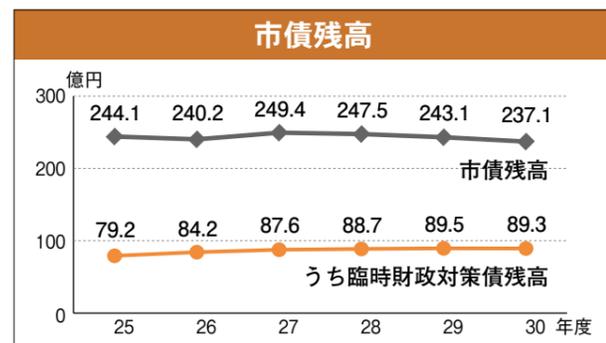


将来負担比率は早期健全化基準（350%）を大きく下回って推移し、比率も順調に減少しています。

基金残高（貯金）および市債残高（借金）の推移



市の貯金である普通会計の基金残高は、健全な財政運営により増加を続けてきましたが、平成30年度は7月豪雨災害の復旧などのため基金を取り崩しています。



市の借金である普通会計の市債残高は、順調に減少しています。後年に財政措置のある臨時財政対策債は、増加傾向でしたが今年度は減少しています。

特別会計の決算状況

会計	歳入決算額	歳出決算額	差引額
国民健康保険事業	41億5,552万円	40億7,826万円	7,726万円
公共下水道事業	11億4,258万円	11億3,140万円	1,118万円
介護保険事業	52億6,646万円	52億5,151万円	1,495万円
保険事業	52億2,770万円	52億2,769万円	1万円
介護サービス事業	3,876万円	2,382万円	1,494万円
後期高齢者医療事業	7億1,383万円	7億973万円	410万円
病院事業債管理	4億9,280万円	4億9,280万円	0万円

企業会計の決算状況

会計	区分	収入	支出	差引額
水道事業	収益的収支	7億2,794万円	6億7,499万円	5,295万円
	資本的収支	1億5,416万円	4億5,603万円	△3億187万円
病院事業	収益的収支	13億2,116万円	13億379万円	1,737万円
	資本的収支	4,654万円	7,039万円	△2,385万円

※収益的収支とは、通常の営業活動に伴う収支のことで、資本的収支とは、資産の整備に伴う収支のことをいう。

地方独立行政法人府中市病院機構の決算状況

会計	収入	支出	差引額
府中市病院機構	36億3,099万円	36億4,560万円	△1,461万円

今の府中市

財政は健全です。
しかし、注意が必要です。

府中市の財政状況を判断する健全化判断比率は良好な状態です。しかし、福祉や医療に掛かる費用の割合が高いことから、財政の硬直化を

示す経常収支比率は高く推移しており、自由に使えるお金が少ない状態を表しています。

健全化判断比率の状況
健全化判断比率とは、地方公共団体の財政状況を客観的に表し、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するためのものとして、毎年の公表が義務付けられた4つの財政指標のことです。この4つの財政指標の早期健全化基準を1つでも超えた場合は、財政の健全化を図る必要があります。

平成30年度の数値は全ての基準をクリアしています
府中市は、右表のとおり、いずれも早期健全化基準以下になっています。
資金不足比率
水道事業会計、病院事業会計、下水道事業特別会計の資金不足比率についても公表が義務付けられていますが、全ての事業において資金不足はありません。

健全化判断比率の4つの財政指標

指標名	府中市	早期健全化基準
実質赤字比率 一般会計などの実質赤字の比率	— (黒字)	13.09%
連結実質赤字比率 全会計の実質赤字の比率	— (黒字)	18.09%
実質公債費比率 一般会計などが負担する公債費などの比率	9.2%	25.0%
将来負担比率 一般会計などが将来負担する地方債残高などの負債の比率	69.2%	350.0%

経常収支比率：96.0% 前年度94.0%

経常収支比率とは、人件費や扶助費、借金の返済金などの義務的な支出が市税などの定期的な収入に占める割合で、比率が高いほど硬直化していると言えます。

これから

収入は減少が見込まれ、
支出は増加が見込まれます。

少子高齢化や人口減少が進む中で、地方交付税をはじめとする収入は減少が見込まれています。一方で、公共施設の老朽化に伴う維持管理

費や建て替え費用の増加などに伴い、支出では増加が見込まれています。

取り組み

収入や支出の見直しにより
引き続き財政の健全化に取り組みます。

収支の見直し

事業を見直し、効率的・効果的に実施するとともに、サービスの提供に掛かる利用者負担を見直します。

市債と基金の適正管理

市債の発行額を抑制しつつ、昨年7月の豪雨災害のような緊急的な支出にも対応できる財政基盤を確保するため、基金を適正管理します。